

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	看護小規模多機能型居宅介護びりーぶ			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	18名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	〈環境・体制整備〉 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっている。こどもの活動に合わせた空間になっている。	清掃者を配置している。 作業療法士の介入がある。 利用者が、年齢的に支援者が近くにいることで安心する為、他の利用者やスタッフの顔がいつも見れるように、ロビーで過ごせるように環境を整えている。	ボランティアによる読み聞かせや、保育士の資格を持ったスタッフ・リハビリスタッフによる季節に合わせた空間づくりを継続する。
2	〈適切な支援の提供〉 ①個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で支援計画を作成している。 ②日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の改善につなげている。	6ヶ月に1回、保護者のニーズを確認して、計画・作成を行っている。 両親が利用時の状態が分かるように、記録は確実に 行いアセスメントし、伝えている。	支援計画は、引き続き看護・介護・リハビリチームで話し合い、本人や家族の思いを聞き・作成していく。
3	〈保護者への説明等〉 保護者からの相談や申し入れについて、対応体制を整備し、迅速かつ適切に行っている。	家族からの利用相談については、出来るだけ断らず調整を行い対応している。	看多機の中で共生型を運営している為、受け入れ人数に制限がある。 看多機とは別での運営を目指す。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	〈環境・体制整備〉 利用定員やこどもの状況等に対して職員の配置数が不足している。	重度の医療的ケア児の受け入れが多く、複数人利用時は2人で行うケアが多く、時間を要す。	職員の求人を継続する。 看多機の中で共生型を運営している為、受け入れ人数に制限がある。 看多機とは別で運営を目指す。
2	〈適切な支援の提供〉 支援終了後の、職員間における支援の振り返りは出来ていない。	問題が発生した時は、その日にチームで話し合いを行っているが、業務が時間内に終わらないことが多い為、毎日の振り返りが出来ていない。	その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有していく習慣は必要である。
3	〈保護者への説明等〉 父母の会の活動支援や保護者会等の開催が少ない。	年間計画の中に父母の会・保護者会を入れていない。	重度の医療的ケア児の両親は日々忙しいが、年一回は保護者の思いを話せる居場所づくりは必要である。